

## 私のウィーン滞在時の思い出

### － バブルと東欧の自由化 －

元オーストリア松下電器社長  
竹内 哲夫（タケウチ テツオ）

この9月初旬に満60歳となり、近くに住む長男の家族と名古屋から次男が駆けつけてくれて34年連れ添ってくれた愚妻共々還暦のお祝いをしてくれました。赤いちゃんちゃんこを着ていましたが、タイガーウッズバージョンの臙脂色のポロシャツ、黒のベストそしてオウンネーム入りのゴルフボールをプレゼントしてもらいました。これから健康維持も兼ねてゴルフに精を出そうと思っております。

今から丁度20年前の'88年8月にウィーンの地を踏み'92年12月末に離れるまでの4年5ヶ月の間、オーストリアに駐在しました。当時のオーストリアは東欧の架け橋としてEU諸国の中で小国ながらそれなりの存在感を出しておりました。私の赴任当初、夏休みやクリスマスシーズンは勿論のこと毎週末にポーランド、チェコスロバキア、ハンガリーそしてユーゴスラビアのバスや乗用車が食料や日用雑貨品や電気製品の買出しにウィーン市内に来ており、市内の商店はその需要で盛り上がっておりました。しかしプラター公園やメッセ会場の道路沿いやドナウ川沿いにそれら古い泥まみれの車が駐車しており、その地域一帯はそれらが発するガソリンの匂いが充満し閉口しておりました。それが'89年のベルリンの壁崩壊を始めとした東欧の自由化以後、買出し車の往来が徐々に減り始めて空気はきれいになったもののウィーン経済の景気停滞の一因となりました。'92年には多くの電気屋さんが倒産しました。買出し需要の減退がウィーンのミニバブル崩壊となった次第です。



プラター公園の大観覧車

一方東欧の自由化を睨んで日系各企業がウィーンを拠点にして東欧各国への事業活動を活発化させたのもこの時期でした。ウィーン国連代表部の設置、全日空による東京－ウィーン路線の就航開始そしてその他数多くの日系企業が進出しました。日本人児童生徒の数も多くなりました。19区に在った日本人学校は'79年に開校以来古い建物、手狭な教員室と教室、猫の額ほどの運動場という環境下にありました。それも限界となり自前の校舎を持つこととなりました。偶々学校の理事を拝命しておりましたので新校舎建築プロジェクトの一員として各関係者の皆さんと協力し、'92年

夏に今の地に移転させることが出来ました。長男は古い校舎で中学を卒業、次男はたった半年だけの新校舎の経験でした。

‘89年の日墺修好条約120周年がらみではウィーン市庁舎の壁をスクリーンにした石井素子デザイン事務所による『音と光の祭典』を後援したことが思い出されます。また「男はつらいよ・寅次郎心の旅路」の映画撮影に出くわせ、主演の渥美清さんの休憩時の物静かさから撮影開始時の寅さんになりきる変わり身の速さには驚かせられました。ウィーン在住の一部の方がエキストラで出演されたのもスクリーンを通してお見かけしました。

その他日本人学校の運動会で企業別リレー対抗に出場し入賞したこと、日本人会のソフトボール大会開催の提唱者の一人として実施にかこつけしかもメーカーチームとして早くも第二回大会での優勝を飾ったこと、年度毎の恒例行事の旅行に参加しいろんな場所を訪問したことがありますが。中でも同時期に駐在していた他の日本人ご夫婦7組と毎月ボウリング大会を楽しみ、年末の12月には子供を入れた家族全員30名程で国内各地を旅行したことが良き思い出として記憶に残っております。この交誼は今でも一部の方々と続いております。



‘89年6月の日本人学校運動会時の  
リレー出場メンバー

思い返せばオーストリアに駐在していました時期は40歳直前から44歳までと働き盛りであり、仕事にスポーツに遊びに励み、多少体に無理を言うことも出来た年代でした。4年5ヶ月と短い期間ではありましたが都合6ヶ国の海外駐在経験をしました中でも最も記憶に残る時期でした。ウィーン時代に乾杯。ウィーン日本人会50周年に乾杯。



‘89年12月のボウリング旅行時の参加メン  
バーの写真、チェコのとある湖上にて